

たのしい算数3年

年間指導計画案

（学校での授業と、学校での授業以外の場において取り組む学習活動の併用版）

大日本図書編集局

【本資料の作成の考え方】

本資料は、休校措置にともなって学校の授業時間が十分に確保できない現状をふまえ、令和2年度用教科書「たのしい算数」について、学校の授業以外で取り組む学習等を年間の指導計画に示したものです。本資料では、以下の考え方をもとに、指導計画を作成しています。

- 授業は1単位時間45分で行われることを前提としています（30分の短縮授業などを取り入れる形式は想定していません）。
- 教科書の主問題（四角番号の問題）は、原則的に授業で扱うこととしています。
- 一部の主問題については、予習を活用して2時間扱いの部分を1時間で扱うなど、短縮が考えられる箇所を示しました。
- 学校の授業以外で取り組む学習活動については、主に知識・技能の習熟を目的とした時間（単元末のたしかめ問題など）や既習の内容の活用を目的とした特設ページなどを想定しています。
- 一部の特設ページについては、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられることを示しました。

本資料はあくまで1つの例として示しています。各地域・学校の実情に合わせて、学校の授業以外での学習活動を増減していただくなど、弾力的にご活用ください。

【本資料の見方】

平時：授業時数127 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内112 + 授業以外15

平時の場合の指導時期・指導時数

1 対称な図形 (指導時期 4月・10時間) → 授業内9時間 + 授業以外1時間

授業以外での学習活動を取り入れた場合の指導時数
表中でオレンジ色とした箇所を授業以外にした場合の時数です。表中で「～することも考えられる」と示した部分を活用すると、さらに学校の授業時間を削減することができます。

単元の目標

対称性に着目して図形を考察し、線対称、点対称の意味や性質などを理解し、対称な図形を作図することができる。
 知 線対称な図形や点対称な図形の意味や性質、作図の仕方について理解し、対称な図形を弁別したり、作図したりすることができる。
 考 対称という見方で図形を分類したり、性質や規則性を見出したりすることができる。また、線対称、点対称な図形を作図の仕方、性質をもとにして考えることができる。
 主 既習の図形を対称という観点で見直そうとして、身の回りから対称な形を見つけようとする。

授業や授業以外での指導の留意点を示しています。

小単元名	時	学習内容	主な評価標準例	学校の授業以外の場で行う場合の留意点
1 対称な図形 (教p.10～13)	1	(ア)フローチャート ◎身の回りの「整った形」を観察することを通して図形の対称性に気づき、線対称、点対称を分類する観点として捉える。 ◎「線対称な図形」「点対称な図形」の用語とそれらの定義を理解し、図形を弁別する。	知 「線対称」「対称の軸」「点対称」「対称の中心」の用語とそれらの意味を理解し、線対称な図形、点対称な図形を弁別できる。 考 身の回りの形や既習の多角形などについて、対称性に着目して考察している。	
2 線対称な図形 (教p.14～18)	2	◎線対称な図形の対応する点、辺、角を調べ、	知 線対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
	3	◎対応する点を結ぶ直線と対称の軸との関係を探り、線対称な図形の性質を理解する。	知 線対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の軸によって垂直に2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	4	◎線対称な図形を作図する。	知 線対称な図形の性質を用いて、線対称な図形を作図することができる。 考 線対称な図形の性質をもとに、作図する方法を考え、説明している。	
3 点対称な図形 (教p.17～19)	5	◎点対称な図形の対応する点、辺、角を調べ、	知 点対称な図形について、対応する点、辺、角の意味や性質を理解している。	
	6	◎対応する点を結ぶ直線と対称の中心との関係を探り、点対称な図形の性質を理解する。	知 点対称な図形の対応する2点を結ぶ直線は、対称の中心を通り、対称の中心によって2等分されることを理解し、その性質を用いて、対応する点を見つけることができる。	
	7	◎点対称な図形を作図する。	知 点対称な図形の性質を用いて、点対称な図形を作図することができる。 主 線対称な図形を、性質をもとに作図したことを繰り返し、点対称な図形も性質をもとに作図しようとしている。	
4 多角形と対称 (教p.20～21)	8	◎既習の四角形を対称の観点から見直す。	知 既習の四角形や三角形を対称という観点で捉え、対称の軸や対称の中心をかき入れることができる。 主 四角形の対称の学習をもとに、他の既習の図形についても、対称の観点から見直そうとしている。	予習でp.20主問題1の三角1、2、p.21主問題2の三角1、三角2の表をつくることに取り組む。 授業ではp.20,21の表を見て話し合うことから、はじめ、第8時、第9時を1時間で指導することも考えられる。
	9	◎既習の正多角形を対称の観点から見直す。	知 正多角形に対称の軸や対称の中心をかき入れることができる。 考 正多角形の対称性に着目し、正多角形と対称の軸の本数や、点対称になる場合の長さについて見直している。	
たしかめ問題 (教p.22～23)	10 1 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 線対称な図形や点対称な図形の性質を理解し、図形を弁別したり、作図したりできる。 考 線対称な図形の弁別を台形の意味に着目して考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまり見られる場合は、個別に支援する。
ふくろう先生の なるほど算数教室1 (教p.24～25)		◎身の回りから対称な形を探したり、折り紙で対称な形を作ったりして、図形の見方を深め、図形への興味・関心を高める。	主 身の回りに対称な図形があることに気づき、進んで探そうとしている。	

平時に授業で扱うことを想定していた学習活動のうち、授業以外で取り組むこととする箇所はオレンジ色をつけました。
また、もともと時数配当されておらず、予備時数などで扱うことを想定していた学習活動については、グレーの色で示しています。

3年

平時：授業時数148 → 授業以外での学習を取り入れた場合：授業内118 + 授業以外30

※無理なく着実に学習を保障することに配慮し、さまざまな取り組みを行ったうえで、なお年度当初に予定していた内容の指導を年度内に終えることが困難である場合には、特例的な対応として、内容の一部を次年度の指導で扱うことも考えられる。その場合でも、p.233の「3年のふくしゅう」は、今年度中に扱うことが望ましい(次年度に送った学習にあたる問題は省略する)。なお、「そろばん」の学習(p.230～232)を次年度に送る場合で、外部の講師を招いて授業を行う場合は、講師との日程調整などに留意する。

1 かけ算 (指導時期 4月・6時間) → 授業内4時間 + 授業以外2時間

単元の目標

乗法に関して成り立つ性質を理解し、乗数または被乗数が10の場合や10より大きい場合の計算に生かすことができる。また、乗数または被乗数が0の場合の乗法の意味と、その積について理解する。

知 乗法に関して成り立つ性質について理解する。また、乗数や被乗数が10や0の場合の乗法の積について理解する。

考 既習事項や乗法の意味から、乗法に関して成り立つ性質を見出すとともに、それをもとに乗数や被乗数が10の場合や10より大きい場合の積の求め方を考え、説明することができる。

主 乗法の計算の仕方について、乗法に関して成り立つ性質を生かして考えようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 かけ算のきまり (教p.10～19)	1 2 ↓ 1 時間 扱い	[アプローチ] ◎教p.10～11上部の、乗法九九の表の一部を切り取ったものを見て、表のどこに当てはまるか考える。 ◎7×4の答えの求め方を考え、乗数が1増減すると積は被乗数分だけ増減することや、乗法の交換法則について理解する。	知 乗数が1増減すると積は被乗数分だけ増減することや、乗法の交換法則について理解している。 考 乗法に関して成り立つ性質を用いて、7×4の答えの求め方を考え、説明している。 主 乗法に関して成り立つ性質を、7×4の答えの求め方に生かそうとしている。	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点 2学年「かけ算のきまり」で学習した内容を全体で簡単に復習してから扱うことで、p.10～12主問題1を短時間で扱い、第2時とあわせて1時間で指導する。
		◎被乗数や乗数を分けて計算する見方で7×6の答えの求め方を考え、分配法則について理解する。	知 乗法の分配法則が成り立つことを理解している。 考 7×6の答えの求め方を、分配法則の考え方をもとにして考え、説明している。	
		◎乗数や被乗数が10の場合の乗法の計算原理や方法を理解し、計算する。	知 乗数や被乗数が10の乗法の計算の仕方を理解している。 考 乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗数や被乗数が10の乗法の計算の仕方を考え、説明している。	
	4	◎乗数が10より大きい場合の乗法の計算原理や方法を理解し、計算する。	考 乗法に関して成り立つ性質をもとに、乗数が10より大きい場合の乗法の計算の仕方を考え、説明している。 主 乗数が10より大きい場合の乗法の多様な計算方法について、それぞれの考えの良さを認めたり、関連付けたりしながら、計算の仕方について話し合っている。	
2 0のかけ算 (教p.20～21)	5	◎おはじき入れのゲームを通して、乗数や被乗数が0の場合の乗法の意味と積について理解する。	知 乗数や被乗数が0の乗法の式表示とその意味、積について理解している。 考 乗数や被乗数が0の乗法の場面を式に表したり、式から場面を考えて説明したりしている。	
たしかめ問題 (教p.22～23)	6 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 乗法に関して成り立つ性質を理解している。 考 被乗数が10より大きい場合の乗法の計算の仕方を、分配法則をもとにして考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で扱う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

ふくろう先生のなるほど算数教室1 (教p.24～25)	◎乗法九九の表の中から、和が100になる数を見つけたり、乗法九九の答えを使って模様作りをしたりして、乗法に対する興味・関心を高める。	主 乗法九九に関する性質を調べることに主体的に取り組み、その性質の面白さに気づいている。	
--------------------------------	--------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------	--

2 たし算とひき算の筆算 (指導時期 4月・8時間) → 授業内6時間 + 授業以外2時間

単元の目標

3位数や4位数の加法及び減法について、既習の2位数などの計算をもとに計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。

知 4位数までの加法及び減法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。

考 2位数などの計算をもとに、4位数までの加法及び減法の筆算の仕方を考え、説明することができる。

主 加法及び減法の筆算の仕方について、既習の計算を生かして考えようとしたり、発展的に桁数の多い計算などについて考えようとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 たし算の筆算 (教p.26～30)	1	〔アプローチ〕 ◎教p.26の場面をもとに、既習の計算を振り返り、数が大きくなったときの計算に対する見直しをもつ。 ◎繰り上がりが1回の3位数までの加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 繰り上がりが1回の3位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 既習の加法の計算をもとに、3位数までの加法の筆算の仕方を考え、説明している。	
	2	◎一の位と十の位が繰り上がる3位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 一の位と十の位が繰り上がる3位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	3 ↓ 配 当 無	◎4位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 4位数までの加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 加法の学習をもとに、減法の計算はどのようにするのかと発展的に新しい問題を見出している。	p.30主問題3は、3位数の加法として第2時に扱う。そして、p.30主問題4は、4位数の計算として、第7時に扱う。
2 ひき算の筆算 (教p.31～35)	4	◎繰り下がりが1回の3位数までの減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 繰り下がりが1回の3位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 既習の減法の計算をもとに、3位数までの減法の筆算の仕方を考え、説明している。	
	5	◎百の位と十の位から繰り下がる3位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 百の位と十の位から繰り下がる3位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	6	◎被減数に空位があり、波及的に繰り下がる3位数までの減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 被減数に空位があり、波及的に繰り下がる3位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 波及的に繰り下がる減法の筆算の仕方を、図などを用いて説明している。	
	7	◎4位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 4位数までの減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。	p.30主問題4も、4位数の計算として、本時に扱う。
たしかめ問題 (教p.36～37)	8 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 4位数までの加法及び減法の計算が筆算でできる。 考 波及的に繰り下がる減法の計算原理を、筋道立てて考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で扱う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

ふくろう先生の なるほど算数教室2 (教p.38)	◎魔方陣づくりを通して、加法や減法の計算に習熟し、数や計算への興味・関心を高める。	主 魔方陣をつくることにより、数の不思議さに興味をもち、進んで取り組んでいる。	
---------------------------------	-------------------------------------------	-----------------------------------------	--

3 ぼうグラフと表 (指導時期 5月・10時間) → 授業内8時間 + 授業以外2時間

単元の目標

身の回りの事象について、観点を決めて資料を分類整理し、表や棒グラフに表したり、資料の特徴を考察したりすることができる。
 知 観点を決めて資料を分類整理し、表や棒グラフに表したり、読み取ったりすることができる。
 考 表や棒グラフを用いて資料の特徴を考察し、見出したことを根拠とともに説明することができる。
 主 資料を分類整理して表や棒グラフに表すことの良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 整理のしかた (教p.39～41)	1	〔アプローチ〕 ◎教p.39の場面を見て、「ふれあい遊び」で行う遊びの決め方について考える。 ◎「正」の字を用いた整理の仕方の良さを理解する。 ◎「正」の字を用いて整理した結果を表に表し、資料について考察する。	知 「正」の字を用いて数量を調べ、表に整理することができる。 主 「正」の字を用いて数量を調べたり、表に整理したりする良さに気づき、生活や学習に生かそうとしている。	
2 ぼうグラフ (教p.42～50)	2	◎棒グラフの特徴や読み方を理解し、資料の特徴を読み取る。また、項目の順序を並べ替える工夫について考える。	知 棒グラフの仕組みや読み方について理解し、読み取ることができる。 考 棒グラフの良さや表し方の工夫について考え、説明している。	
	3	◎棒グラフのいろいろな表し方を理解し、資料の特徴を読み取る。また、時系列に表した棒グラフの良さを理解する。	知 1目盛りの大きさに留意して棒グラフを読み取ることができる。 考 時系列の順に表した棒グラフの良さについて考え、説明している。	
	4	◎棒グラフの表し方を理解し、資料を棒グラフに表す。	知 棒グラフの表し方を理解し、資料をもとに棒グラフをかくことができる。	
	5	◎資料の最大値やグラフ用紙の目盛りをもとに1目盛りの大きさを考え、棒グラフに表す。	考 資料の最大値とグラフ用紙の大きさをもちに、グラフの1目盛りの大きさを決定している。	
	6 ↓ 配 当 無	◎目盛りのとり方に気をつけて、正しく棒グラフを読み取る。	知 目盛りのとり方によって、棒グラフの見え方が変わることを理解している。 考 グラフから読み取った内容を批判的に考察している。	p.48主問題5は比較的短時間で終わる内容なので、第4、5時の鉛筆問題を授業以外の扱いにするなどして、主問題5を第4、5時の中で扱う。

	7	◎観点を決めて資料を分類整理し、表や棒グラフに表し、考察する。	考 観点を決めて資料を整理し、表やグラフをもとに資料の特徴を考察している。 主 いろいろな観点を資料を整理したり、表やグラフをもとに多面的に考察したりしようとしている。	
3 表やグラフのくふう (教p.51～52)	8	◎一次元の表をもとに二次元の表をつくり、資料の特徴を読み取る。また、二次元の表の良さを理解する。	知 二次元の表の読み方や表し方、その良さについて理解している。 考 資料を二次元の表にまとめ、資料の特徴を考察している。	
	9	◎複数の棒グラフを組み合わせたグラフの読み方や表し方を理解する。	知 複数の棒グラフを組み合わせたグラフの読み方や表し方、その良さについて理解している。 考 二次元の表を、複数の棒グラフを組み合わせたグラフにまとめ、資料の特徴を考察している。	
たしかめ問題 (教p.53～54)	10 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 棒グラフを読み取ったり、表したりすることができる。 考 グラフから分かることをもとに問題に対する結論を考え、説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で進行。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
読み取る力をのばそう (教p.55)	1	◎身近な事象について表された表やグラフを活用して資料を完成させ、その特徴を読み取る。	考 資料を表や棒グラフに表して、その特徴を読み取ったり、批判的に考察したりしている。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

4 わり算 (指導時期 5月・7時間) → 授業内6時間 + 授業以外1時間

単元目標

除法の意味を具体物の操作をもとに理解し、場面を除法の式に表すことができる。また、除法の答えの求め方を具体物の操作や乗法をもとに考え、九九1回でわりきれる除法の計算をすることができる。
 知 除法の意味(等分除、包含除)を理解し、場面を式に表して、乗法九九を用いて答えを求めることができる。
 考 数量の関係や分け方に着目し、等分除、包含除の意味や答えの求め方を、具体物の操作や既習の乗法、減法や図をもとに考え、説明することができる。
 主 除法の意味や計算の仕方について、具体物の操作や乗法などから捉えようとする。また、身の回りから除法の場面を見出すなど、除法の計算を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 1人分は何こ (教p.56～60)	1	[アプローチ] ◎教p.56の場面をもとに、同じ数や量ずつに分ける計算に対する興味・関心を高め、本単元の学習の見通しをもつ。 ◎等分除の場面を具体物の操作などにより捉え、除法の意味や式表示について理解する。	知 等分したときの1つ分の数を求めるとき(等分除)は、除法の式に表すことを理解している。 考 数量の関係に着目し、等分除の意味や答えの求め方を、具体物を用いて考え、説明している。	
	2	◎等分除の答えは乗法九九を用いて求められることを理解し、除法の計算をする。	知 等分除の答えは、乗法九九を用いて求められることを理解し、求めることができる。 考 等分除の意味から、乗法九九を用いて答えを求める方法を考え、説明している。	
2 何人に分けられる (教p.61～65)	3	◎包含除の場面を具体物の操作などにより捉え、除法が用いられることを理解する。	知 等分したときのいくつ分の数を求めるとき(包含除)は、除法の式に表すことを理解している。 主 等分除の意味や答えの求め方を、具体物や図、式を用いて考えたことを振り返り、包含除でもそれらを用いようとしている。	
	4	◎包含除の場合も、答えは乗法九九を用いて求められることを理解し、除法の計算をする。	知 包含除の答えも、乗法九九を用いて求められることを理解し、求めることができる。	
	5	◎具体的な場面の考察を通して、等分除、包含除と乗法との関係について理解する。	知 除法の用いられる場面や意味を理解している。 考 等分除、包含除の意味や違いを、既習の乗法や図をもとに考え、説明している。	
3 0や1のわり算 (教p.66)	6	◎0をわったり、1でわったりする計算の意味を理解し、計算する。	知 被除数が0の場合や除数が1の場合の除法の意味を理解している。 考 被除数が0の除法の計算の意味を考え、説明している。	
たしかめ問題 (教p.67～68)	7 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 乗法九九1回適用の除法の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。 考 式を読み取り、等分除や包含除の場面を問題文に表すことができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で進行。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。
おうちで算数 (教p.68)		◎生活の中でいろいろな物を分けるときに、除法を活用する。		

	6	◎2位数×1位数で、部分積が百の位に繰り上がる場合の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数×1位数で、部分積が百の位に繰り上がる場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 2位数×1位数の学習をもとに、3位数×1位数もできないかと発展的に新しい問題を見出している。	
3 (3けた)×(1けた)の筆算 (教p.86～88)	7	◎3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのない場合の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数×1位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の構成に着目し、3位数×1位数の計算の仕方を、既習の乗法を用いて考え、説明している。	
	8	◎3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのある場合の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数×1位数で、部分積に繰り上がりのある場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
	9	◎3位数×1位数で、被乗数に空位がある場合の筆算の仕方を理解し、計算する。 * 4位数×1位数の筆算の仕方を考える。	知 3位数×1位数で、被乗数に空位がある場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。	
* 大きな数のかけ算を考えよう (教p.88)				
4 かけ算のきまり (教p.89)	10	◎具体的な場面を通して、乗法の結合法則が成り立つことを理解する。	知 乗法の結合法則の意味を理解し、それを用いて計算を工夫することができる。	
5 かけ算と言葉の式や図 (教p.90～91)	11 12 ↓ 1時間扱い	◎具体的な乗法の場面を、「1つ分の大きさ×いくつ分=全体の大きさ」という言葉の式にまとめる。	知 乗法の場面が、「1つ分の大きさ×いくつ分=全体の大きさ」という言葉の式に表されることを理解している。 考 乗法に関するいろいろな言葉の式を1つの言葉の式にまとめることができる。	p.90, 91の鉛筆問題を授業以外の扱いにするなどして、第11, 12時を1時間扱いとする。
		◎具体的な乗法の場面を、言葉の式やテープと数直線の図で表し、問題を解決する。	知 乗法の場面で、テープと数直線の図が表す意味を理解し、立式することができる。	
たしかめ問題 (教p.92～93)	13 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 2, 3位数×1位数の計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。 考 2位数×1位数の計算方法を、分配法則をもとにして考え、説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

* 算数たまたばこ

7 円と球 (指導時期 7月・8時間) → 授業内6時間 + 授業以外2時間

単元の目標

円と球の特徴を見出し、コンパスを用いて円をかいたり、長さを写し取ったりすることができる。
 知 円と球の中心、半径、直径の意味やそれらの関係を理解するとともに、コンパスの使い方を理解し、コンパスを用いて円をかいたり、長さを写し取ったりすることができる。
 考 中心から等距離にある点の集まりが円になることや、円の半径や直径が無数にあること、半径と直径の長さの関係を見出すことができる。
 主 身の回りから円や球を見つけようとする。また、コンパスなどを用いた模様づくりをたのしみ、円のもつ美しさに気づく。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 円 (教p.94～103)	1	[アプローチ] ◎教p.94の場面をもとに、公平に輪投げをすることができる並び方について話し合い、1点から等距離にある点に対する興味・関心を高める。	考 1点からの距離に着目し、等距離にある点の集まりがきれいなまるい形になることを見出している。	
		◎1点から等距離にある点は多数存在し、その点の集まりがまるい形になることを理解する。		
	2	◎「円」、円の「中心」、「半径」の用語とそれらの意味を理解する。	知 「円」、円の「中心」、「半径」の用語とそれらの意味を理解している。 主 身の回りから円を見つけようとしている。	
	3	◎円の「直径」の用語とその意味や、半径と直径の関係を理解する。 * 「直」、「径」の漢字の意味を知り、「直径」の用語の理解を深める。	知 円の半径は無数にひけて、長さが全て等しいことを理解している。また、円の「直径」の用語とその意味や半径と直径との関係を理解している。	
* 「直」「径」の意味 (教p.99)	4 5 ↓ 1時間扱い	◎コンパスの使い方を理解し、決められた大きさの円をかく。	知 コンパスを用いた円のかき方を理解し、決められた大きさの円をかくことができる。	第5時は、コンパスの扱いに慣れたり、円の美しさを感じたりするための内容であるので、やや簡易な扱いとして第4時と一緒に扱う、または授業以外の場で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
	◎円を使ったいろいろな模様をかくことを通して、コンパスの使い方に慣れるとともに、模様の美しさを味わう。	知 コンパスを用いて例示の模様やいろいろな模様をかくことができる。 主 円を使った模様をかく活動をたのしみ、その美しさを感じている。		

	6	◎コンパスを用いて長さを写し取ったり、2点からそれぞれ決まった長さにある点の位置を見つけたりし、コンパスの有用性の理解を深める。	知 コンパスで長さを写し取ったり、同じ長さに区切ったりすることができる。 主 コンパスの有用性に気づいている。	
2 球 (教p.104)	7	◎円に関連して「球」を知り、その基本的な性質を理解する。	知 球の概念や性質と、球に関する用語の意味を理解している。	
たしかめ問題 (教p.105～106)	8 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 円や球に関する用語や特徴を理解している。また、円の作図ができる。 考 円や球の半径と直径の長さの関係に着目し、いろいろな長さを見出している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
ふくしゅう (教p.107)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

* 算数たまたばこ

8 大きな数 (指導時期 9月・10時間) → 授業内8時間 + 授業以外2時間

単元の目標

1億までの数について、数の構成、表し方、読み方などを理解するとともに、ある数の10倍や10でわった大きさについて理解する。
 知 1億までの数の構成や表し方、読み方、順序、系列、大小について理解し、数を表したり、読んだりすることができる。また、ある数の10倍、100倍、1000倍の数や10でわった数の大きさについて理解する。
 考 既習の数から類推して、大きな数の表し方、読み方を考えることができる。また、数を相対的にみるなど多面的に捉え、それをもとに加法、減法の仕方を考えることができる。
 主 身の回りから大きな数を見つけようとするなど、数の表し方や読み方を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 万の位 (教p.108～116)	1	[アプローチ] ◎教p.108の写真を見て、オリンピックに関する数字を読み、数に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。 ◎一万の位までの数の構成や表し方、読み方を理解する。	知 一万の位までの数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。 考 既習の数の表し方から類推して、一万の位までの数の表し方を考えている。 主 身の回りの数に進んで関わり、より大きな数の表し方や読み方を調べようとしている。	
	2 3 ↓ 1時間扱い	◎千万の位までの数の構成や表し方、読み方を理解する。	知 千万の位までの数の構成や表し方、読み方、相対的な大きさなどを理解している。 考 千の位までの数の構成から類推して万の位の構成について考えている。	p.112の鉛筆問題を授業以外で扱うなどして、第2, 3時を1時間扱いとする。
	4	◎1万より大きい数を、その構成をもとに、1000を単位として相対的にみて表す。	知 1000を単位として数を相対的にみて表すことができる。 考 数の仕組みをもとに、1000を単位とした数の相対的な見方について考えている。	
	5	◎1万より大きい数の数直線上の表し方や順序、系列について理解する。 ◎1億の数の構成、表し方、読み方を理解する。	知 数直線上に表された数を読み取ったり、数直線上に数を表したりすることができる。また、1億の数の構成、表し方、読み方を理解している。	
	6	◎大きな数の大小比較の仕方を理解する。 ◎万を単位とした加法、減法の計算の仕方を理解する。	知 大きな数の大小比較の仕方を理解している。 考 数の相対的な大きさの見方を活用して、大きな数の計算の仕方を考えている。	
2 10倍した数や10でわった数 (教p.117～119) *身の回りから大きな数をさがそう (教p.118)	7	◎ある数を10倍、100倍、1000倍した数について理解する。 *身の回りから大きな数を探し、大きな数に対する興味・関心を高める。	知 ある数の10倍、100倍、1000倍の数の大きさについて理解している。 考 ある数を100倍した数は、ある数の10倍を10倍した数であると考え、説明している。	
	8	◎一の位に0のある数を10でわった数について理解する。	知 ある数を10でわった数の大きさについて理解している。	
3 数の見方 (教p.120)	9	◎1つの数を多面的にみて表す。	考 1つの数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。	
たしかめ問題 (教p.121～122)	10 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 1億までの数の構成や表し方、読み方、順序、系列、大小について理解している。 考 1つの数のいろいろな見方と式表示とを関係付けて捉えることができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

ふくろう先生の なるほど算数教室3 (教p.123)	◎外国のおつりの渡し方について知り、数の数え方に対する興味・関心を高める。	主 外国のおつりの数え方に関心を持ち、活動に進んで取り組んでいる。	
暗算 (教p.124)	◎2位数どうしの加法及び減法を暗算で計算する。	知 2位数どうしの加法や減法の計算が暗算でできる。 考 数の構成に着目して、2位数どうしの加法や減法の暗算の仕方を考え、説明している。	

* 算数たまたばこ

9 あまりのあるわり算 (指導時期 9～10月・7時間) → 授業内6時間 + 授業以外1時間

単元の目標

あまりのある場合の除法について、計算の仕方を既習の除法と関連付けて考え、場面を式に表して計算することができる。また、場面に合わせてあまりを適切に処理することができる。

知 「あまり」の意味、あまりと除数の大小関係、及びあまりのある除法の計算の仕方を理解し、計算することができる。

考 既習の除法と関連付けて、あまりのある除法でも乗法九九を使って答えが求められることを考え説明する。また、あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方について考え説明したりすることができる。

主 あまりのある除法の意味や計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとする。また、あまりのある除法の場面を身の回りから見出すなど、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 あまりのあるわり算 (教p.125～130)	1	◎乗法九九を1回適用する除法(含包除)で、あまりの意味と計算の仕方を理解する。	知 「あまり」、「わりきれない」、「わりきれぬ」の用語とそれらの意味や、あまりのある除法の式表示と計算の仕方を理解している。 考 数量の関係に着目し、既習の除法と関連付けて、あまりのある包除でも乗法九九を使って答えが求められることを見出し、説明している。 主 あまりのある除法の意味や計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとする。	
	2	◎あまりと除数の大小関係について理解する。	知 あまりが除数より小さくなることを理解している。 考 図を用いて、あまりと除数の大小関係について説明している。	
	3	◎等分除の場面において、あまりの意味や計算の仕方を理解する。	知 等分除の場面の式表示と計算の仕方を理解している。 考 数量の関係に着目し、既習の除法と関連付けて、あまりのある等分除でも乗法九九を使って答えが求められることを見出し、説明している。	
	4	◎あまりのある除法の答えの確かめ方を理解する。	知 あまりのある除法の答えの確かめ方を理解している。 考 被除数、除数、あまりの関係に着目して、確かめの仕方を説明している。	
2 あまりの見方 (教p.131～133) * つみ木の数あて (教p.133)	5	◎問題場面に即してあまりの処理の仕方を考え、問題を解決する。	知 問題場面に応じたあまりの処理の仕方を理解している。 考 あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方を考え、説明している。	
	6	* 数の並び方の規則性を捉え、除法を活用して問題を解決する。		
たしかめ問題 (教p.134～135)	7 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 あまりのある除法の計算ができる。また、あまりのある除法の確かめの仕方を理解している。 考 あまりの処理の必要な問題場面で、問題場面に即してあまりの処理の仕方について説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間でを行う。つまづきが見られる場合は、個別に支援する。

* 算数たまたばこ

10 大きな数のわり算 (指導時期 10月・2時間) → 授業内2時間

単元の目標

除数が1位数で商が2位数になる除法について、数の仕組みに着目して計算の仕方を考えることができる。

知 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数になる計算の仕方を理解し、計算することができる。

考 10を単位とした数の見方や数の構成的な見方に着目し、除法の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 除数が1位数で商が2位数になる除法の計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 答えが2けたになるわり算 (教p.136～137)	1	◎何十÷1位数で、十の位がわりきれられる場合の計算原理や方法を理解し、計算する。	知 何十÷1位数の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 10のいくつ分という見方に着目し、何十÷1位数の計算の仕方を考え、説明している。	
	2	◎2位数÷1位数で、位ごとにわりきれられる場合の計算原理や方法を理解し、計算する。	知 2位数÷1位数の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 2位数÷1位数の計算の仕方について、既習(何十÷1位数)の計算をもとに、位ごとに分けて計算する方法を考え、説明している。 主 何十÷1位数について図などを用いて考えたことを振り返り、2位数÷1位数の計算にも生かそうとしている。	

11 小数 (指導時期 10月・12時間) → 授業内11時間 + 授業以外1時間

単元の目標

小数の構成や順序、系列、大小について理解するとともに、加法及び減法の計算の仕方を整数の計算の仕方をもとに考え、計算することができる。知 小数の意味や表し方、構成、順序、系列、大小について理解し、端数部分の大きさを小数を用いて表すことができる。また、小数第一位までの小数の加法及び減法の計算をすることができる。
考 端数部分の大きさを表すとき、十進位取り記数法や等分したいいくつ分の考えをもとに新たな単位(0.1)をつくり、そのいくつ分で表すなど、拡張して考えることができる。また、小数を多面的に捉え、それを生かして加法及び減法の計算の仕方を考え、説明することができる。
主 小数を用いると、整数で表せない端数部分の大きさを表すことができるなどの良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 小数 (教p.138～141)	1	[アプローチ] ◎教p.138の写真を見て、小数が使われている場面について話し合い、新しい数に対する興味・関心を高める。 ◎端数部分の大きさの表し方を考え、小数の表し方と読み方を理解する。	知 端数部分の小数での表し方や読み方を理解している。 考 端数部分の表し方について、十進位取り記数法をもとに類推的に考えている。	
	2	◎長さについて、複名数で表される数量を、小数を用いて単名数で表すことができることを理解する。	知 複名数で表された長さを、小数を用いて単名数で表すことができる。 主 小数を用いると、長さを単名数で表すことができることの良さに気づき、生活や学習に生かそうとしている。	
2 小数のしくみ (教p.142～145) *身の回りから小数をさがそう (教p.143)	3	◎小数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 ◎小数の数直線上の表し方について理解する。 *身の回りから小数を探し、小数に対する興味・関心を高める。	知 小数の十進構造を理解するとともに、数直線上に小数を表したり、表された小数を読み取ったりすることができる。 主 身の回りから小数をいろいろと見つけようとしている。	
	4	◎小数を、数の構成をもとに、0.1を単位として相対的にみて表す。	知 小数を0.1のいくつ分とみて表すことができる。 考 小数を0.1のいくつ分で表す方法を考え、説明している。	
	5	◎小数と整数、小数と小数の大小比較の仕方を理解する。	知 小数の大小比較の仕方を理解している。 考 小数の大小比較の仕方を考え、説明している。	
3 数の見方 (教p.146)	6	◎1つの数を多面的にみて表す。	考 1つの小数を多面的にみて表すことができる。 主 数をいろいろな見方で表そうとしている。	
4 小数の計算 (教p.147～151)	7	◎小数第一位までの小数の加法の計算の意味や原理、方法を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の加法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 0.1のいくつ分という見方に着目し、小数の加法の計算の仕方を考え、説明している。	
	8		知 小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 小数の仕組みと、小数の加法の筆算を関連付けて考えている。	
	9	◎小数第一位までの小数の加法の計算の意味や原理、方法を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 小数の仕組みと、小数の加法の筆算を関連付けて考えている。	
	10	◎小数第一位までの小数の減法の計算の意味や原理、方法を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 0.1のいくつ分という見方に着目し、小数の減法の計算の仕方を考え、説明している。	
	11	◎小数第一位までの小数の減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知 小数第一位までの小数の減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 小数の仕組みと、小数の減法の筆算を関連付けて考えている。	

たしかめ問題 (教p.152～153)	12 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 小数の表し方や構成、大小を理解し、多面的にみて表したり、加減の計算をしたりすることができる。 考 小数の加法の計算原理を、図や言葉で説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
読み取る力をのぼそう (教p.154)	1	◎小数の数の構成に着目して、ゲームの仕組みについて考察する。	知 カードをひいてできた小数と整数5との差を比較すればよいことを理解している。 考 数の構成に着目して、カードをひいてできた小数5.4に勝てない理由を考え、説明している。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

* 算数たまたばこ

12 長さ (指導時期 11月・5時間) → 授業内3時間 + 授業以外2時間

単元の目標

長さの単位「km」の意味や「m」との関係を理解し、それを用いて長さを表したり、目的に応じて計器を選択し、長さを測定したりすることができる。
 知 巻尺の使い方や「道のり」、「きょり」の用語、長さの単位「km」について理解し、それを用いて長さを表したり、長さの見当をつけて測定したり、長さの加減の計算をしたりすることができる。
 考 はかる物の特徴に着目し、適切な計器を選択することができる。
 主 巻尺やkmの単位の良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 長さのはかり方 (教p.155～157)	1 2	[アプローチ] ◎教p.155の場面をもとに、既習の1mのものさしより長いものさしの必要性に気づき、長い長さのはかり方に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。 ◎巻尺の必要性や目盛りの読み方、測定の仕方を理解する。 ◎およその見当をつけ、巻尺を用いていろいろな物の長さを測定するとともに、その良さを理解する。	知 巻尺の必要性や目盛りの読み方、測定の仕方を理解している。 知 巻尺を用いて身の回りの物の長さを測定することができる。 主 巻尺を用いると、長い物や曲がった物の長さをはかれるという巻尺の良さに気づいている。	
2 キロメートル (教p.158～159)	3	◎「道のり」、「きょり」の用語とその意味、長さの単位「km」や1km=1000mの関係について理解する。	知 「道のり」と「きょり」の意味の違いや、単位「km」と1km=1000mの関係を理解し、目的に合わせて適切な単位で長さを表現するとともに、km、mで表された長さの加減の計算ができる。 主 長さの単位「km」の良さに気づき、生活や学習に生かそうとしている。	
たしかめ問題 (教p.160～161) * 長さについて調べよう (教p.161)	4 5 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 * 校庭を1km歩いてみたり、避難所までの道のりやかかる時間を調べたりする。	知 「道のり」と「きょり」の意味、巻尺の目盛りの読み方や1km=1000mの関係を理解するとともに、適切な単位を選択して長さを表すことができる。 考 はかる物の特徴に着目し、巻尺を用いると測定しやすい場面を適切に判断している。 主 1kmを歩く活動を通して1kmの量感を養い、生活に生かそうとしている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。 p.161「長さについて調べよう」は、地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

* 算数たまたばこ

13 分数 (指導時期 11月・8時間) → 授業内6時間 + 授業以外2時間

単元の目標

分数の構成や大小、小数と分数の関係を理解するとともに、単位分数に着目して簡単な分数の加減の計算の仕方を考え、計算することができる。
 知 分数の意味や表し方、読み方、構成や大小、小数と分数の関係を理解し、和が1までの同分母分数の加法及び減法の計算をすることができる。
 考 単位分数に着目して、簡単な加法及び減法の計算の仕方を考え、説明することができる。
 主 分数の仕組みや分数で表すことの良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 分数 (教p.162～167)	1	[アプローチ] ◎既習の分数を振り返り、いろいろな分数について学習するという本単元の見通しをもつ。 ◎1mの1/3の長さを1/3mと表すことを理解する。	知 分数を用いた長さの表し方を理解し、1mを等分してできる部分の大きさを、分数を用いて表すことができる。 主 小数や整数で表すことができないう長さも表すことができるという分数の良さに気づいている。	

* 分数を使つてものさしをつくろう (教p.167) * もとの大きさがちがうと… (教p.167)	2	◎1mをn等分した長さのいくつ分の長さ、かさの表し方や、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を理解する。	知 1mや1Lをn等分したいくつ分の長さ及びかさを分数で表すことができる。また、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を理解している。	
	3 ↓ 配当無	* 1mのテープを使つて分数ものさしをつくり、いろいろな物の長さを測定し、分数を用いて表す。 * 2m、4mの1/4は1/4mではないことから、量分数についての理解を深める。	主 身の回りのいろいろな物の長さを、分数を用いて調べようとしている。	p.167「分数を使つてものさしをつくろう」、「もとの大きさがちがうと…」は簡易的な扱いとして授業以外の時間に扱う、または地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。
2 分数の大きさ (教p.168～169)	4	◎分数の仕組みや $5/5m=1m$ の関係、大小比較の仕方について理解する。 ◎1より大きい分数があることを理解する。	知 単位分数で表された長さをもとに、いろいろな長さを分数で表すことができる。また、 $5/5m=1m$ であることや、1より大きい分数があることを理解している。	
3 分数と小数 (教p.170)	5	◎ $1/10=0.1$ という関係を理解し、分数と小数、分数と整数の大小を比較する。	知 $1/10=0.1$ という分数と小数の関係を理解し、大小比較をすることができる。	
4 分数の計算 (教p.171～173)	6	◎同分母の真分数どうしの加法について、計算の意味や原理、方法を理解し、計算する。	知 同分母の真分数どうしの加法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 単位分数に着目し、同分母の真分数どうしの加法の計算の仕方を考え、説明している。	
	7	◎同分母の真分数どうしの減法について、計算の意味や原理、方法を理解し、計算する。 ◎和が1になる計算や1から真分数をひく計算の仕方を理解し、計算する。	知 同分母の真分数どうしの減法や、和が1になる加法、1から真分数をひく減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 単位分数に着目し、同分母の真分数どうしの減法の計算の仕方を考え、説明している。	
たしかめ問題 (教p.174～175)	8 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 分数の構成や大小を理解し、加減の計算をすることができる。 考 真分数どうしの加法の計算の仕方を、図を用いて説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で扱う。つまりが見られる場合は、個別に支援する。

* 算数たまたばこ

14 三角形と角 (指導時期 11～12月・9時間) → 授業内6時間 + 授業以外3時間

単元の目標

辺の長さに着目して三角形を分類し、二等辺三角形や正三角形の定義、性質を理解するとともに、それらを作図することができる。
 知 二等辺三角形や正三角形の定義や性質を理解し、それらを用いて三角形を弁別したり、作図したりすることができる。
 考 図形の構成要素に着目して、二等辺三角形や正三角形の特徴を見出すことができる。
 主 身の回りから二等辺三角形や正三角形が使われている場面を見つけようとして、二等辺三角形や正三角形を数き詰める活動をたのしみ、平面のひろがりや模様的美しさに気づいたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点	
1 いろいろな三角形 (教p.176～179)	1	〔アプローチ〕	知 「二等辺三角形」、「正三角形」の用語とそれらの定義を理解している。	p.177で、三角形を実際につくる活動を行わず、教科書の三角形の写真を活用して1時間で扱う。	
	2 ↓ 1 時間 扱い	◎教p.176の写真を見て、三角形に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。 ◎ストローでつくつたいろいろな三角形を分類する活動を通して、「二等辺三角形」、「正三角形」の用語とそれらの定義を理解し、弁別する。	考 辺の長さに着目して三角形を分類し、それをもとにそれぞれの三角形の特徴を見出している。		
2 三角形のかき方 (教p.180～182)	3	◎コンパスとものさしを用いた二等辺三角形の作図の仕方を理解する。	知 二等辺三角形のかき方を理解し、コンパスとものさしを用いて作図することができる。		
	* 二等辺三角形や正三角形をつくろう (教p.181)	4	◎コンパスとものさしを用いた正三角形の作図の仕方を理解する。 * 折り紙を用いて二等辺三角形や正三角形をつくり、そのようにしてつくることができるわけを考える。	知 正三角形のかき方を理解し、コンパスとものさしを用いて作図することができる。 主 二等辺三角形の作図の仕方を振り返り、それを正三角形の作図に生かそうとしている。	
		5	◎円とその半径を用いると、二等辺三角形や正三角形を作図することができることを理解する。	知 円とその半径を用いた二等辺三角形や正三角形の作図の仕方を理解している。 考 円とその半径を用いると二等辺三角形や正三角形が作図できるわけを、その図形の特徴や円の性質に着目して考え、説明している。	
3 三角形の角 (教p.183～184)	6	◎「角」の用語とその意味を理解し、角の大きさは辺の開き具合で決まることを理解する。	知 「角」の用語とその意味や、角の大きさは辺の開き具合で決まることを理解している。		

	7	◎二等辺三角形と正三角形の3つの角の大きさを比べ、それぞれの三角形の角の大きさに関する性質を理解する。	知 二等辺三角形や正三角形の角の性質を理解している。 考 二等辺三角形や正三角形を観察したり、折ったり重ねたりして、角の性質を帰納的に見出している。	
4 三角形のしきつめ (教p.185)	8 ↓ 配当無	◎合同な二等辺三角形や正三角形で敷き詰め模様を作り、図形に対する感覚を豊かにする。	考 合同な二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた模様の中から、いろいろな形を見出している。 主 二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動をたのしみ、平面のひろがりや模様の美しさに気づいている。	敷き詰め模様をつくる活動は、学校の授業以外の場で行う。授業では、模様を見て気づいたことを短時間話し合う程度とする。
たしかめ問題 (教p.186～187)	9 ↓ 配当無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 二等辺三角形や正三角形の定義、性質を理解し、作図することができる。また、角の大きさを比べることができる。 考 図形の構成要素に着目し、三角定規を組み合わせると二等辺三角形になる理由を説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

ふくしゅう (教p.188)		◎復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。		学校の授業以外の場で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
*どんな計算するのか (教p.189)	1	*具体的な問題場面で、どんな計算になるか判断し、問題を解決する。	考 数量の関係を正しく捉え、既習事項を活用して問題を解決することができる。	地域や学校の状況に応じて取り扱わないことも考えられる。

* 算数たまたばこ

15 重さの単位 (指導時期 1月・9時間) → 授業内7時間 + 授業以外2時間

単元の目標

重さの比べ方を考え、重さの単位、測定の意味を理解し、計器を適切に選択して測定したり、長さやかさと重さの単位を関連付けて統合的に考えたりすることができる。

知 重さの単位「g」、「kg」、「t」とその関係を理解し、はかりを用いて重さを測定することができる。

考 重さも長さやかさと同じように、単位を決めて数値化できると考えたり、長さやかさ、重さの単位の間接比較に着目して統合的に考えたりすることができる。

主 普遍単位を用いて重さを表すよさや重さの表し方やはかりを用いた測定を生活や学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 グラム (教p.190～193)	1 2	[アプローチ] ◎いろいろな物を手に持って重さを比べ、重さの比べ方に関心をもち、本単元の見直しをもつ。 ◎直接比較や間接比較をしたり、任意の重さを単位としてそのいくつ分で重さを数値化したりして、重さを比較する。また、重さの普遍単位「g」を知り、重さをgの単位で表す。	知 重さの単位に「g」があり、これを用いて重さを表すことを理解している。 考 重さも長さやかさと同じように、単位を決めて数値化できると考えている。 主 普遍単位を用いて重さを表すことのよさや重さの表し方やはかりを用いた測定を生活や学習に生かそうとする。	p.190～193で、実際に重さを比べる活動を行わず、p.192、193の表を活用して1時間で扱うことも考えられる。
2 はかり (教p.194～198)	3	◎はかりの目盛りの読み方、使い方を理解し、はかりを用いて重さの測定をする。	知 はかりの目盛りの読み方や使い方を理解し、秤量1kgのはかりを用いて重さを測定することができる。 主 はかりを用いていろいろな物の重さを測定しようとしていたり、生活や学習にはかりを生かそうとしていたりしている。	
	4	◎重さの単位「kg」を知り、1kg=1000gの関係や秤量4kgのはかりの目盛りの読み方や使い方について理解する。	知 1kg=1000gの関係を理解し、秤量4kgのはかりの目盛りを読み取ることができる。	
	5	◎計器を選択して身の回りの物の重さを測定する。	知 重さの見当をつけ、適切な計器を選択して重さを測定することができる。	
	6	◎重さについても加法、減法が適用できることを理解し、重さに関する問題を解決する。	知 重さに関する加減の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 重さに関する加減の計算を適用し、工夫して重さの問題を解決している。	
おうちで算数 (教p.198)		◎生活の中で、いろいろな物の重さを工夫してはかる。		
3 トン (教p.199)	7 8 ↓ 1時間扱い	◎大きな重さの単位「t」を知り、1t=1000kgの関係を理解する。 * 日常で使われる単位「mg」について知る。	知 大きな重さの単位「t」と1t=1000kgの関係について理解している。	p.199主問題1、p.200主問題1ともに、比較的短時間で扱える内容であるため、第7、8時を1時間扱いとする。
* 小さな重さの単位 (教p.199)		◎長さ、かさ、重さの単位の仕組みを調べ、単位の関係を整理する。	考 長さ、かさ、重さの単位について、上位単位は下位単位の何倍かを整理し、接頭語に着目しながら統合的・発展的に単位の関係について考えている。	
4 単位のしくみ (教p.200)				

たしかめ問題 (教p.201~202)	9 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 重さの単位「g」、「kg」、「t」とその関係について理解し、はかりの目盛りを読んだり、重さの加減の計算をしたりすることができる。 考 ある物の重さを媒介とすれば、他の物の重さを間接比較できることを見出し、説明している。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
ふくろう先生のなるほど算数教室4 (教p.203)		◎いろいろな重さの分銅を組み合わせて様々な重さをつくる活動を通して、順序良く場合を調べる方法を考える。	考 目的の重さをつくるのに、すでにつくった重さを活用したり、順序よく分銅を変えたりして考えることができる。 主 限られた数で様々な数が表せることの面白さに気づいている。	
ふくろう先生のなるほど算数教室5 (教p.204)		◎算数を仕事に生かしている方へのインタビューを読み、算数への学習意欲を高める。	主 算数が仕事や生活に生かされていることを知り、算数の学習に対する意欲を高めている。	

* 算数たまたばこ

16 □を使った式 (指導時期 1~2月・5時間) → 授業内4時間 + 授業以外1時間

単元の目標

- 未知の数量を記号の□を用いて表し、数量の関係を式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。
 知 □を用いると式表示が容易になり、数量の関係が明確になることを理解し、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。
 考 具体的な場面を通して、未知の数量を□として式表示し、数量の関係を捉えたり、□に当てはまる数の求め方を考えたりすることができる。
 主 □を用いると式表示が容易になり、数量関係が明確になるという良さに気づき、学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 たし算とひき算 (教p.205~208)	1	◎具体的な場面について、加法になる関係を□を用いた式に表し、線分図を用いるなどして□に当てはまる数を求める。	知 加法の問題場面で、未知の数量を□として数量の関係を式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。 考 加法の問題場面で、□に当てはまる数の求め方を図をもとに考え、説明している。 主 □を用いることの良さに気づき、立式に□を用いようとしている。	
* ひき算の場面を式に表そう (教p.208)	2	◎具体的な場面について、減法になる関係を□を用いた式に表し、線分図を用いるなどして□に当てはまる数を求める。 * 減法の場面で、減数が□になる場合について、□に当てはまる数の求め方を考える。	知 減法の問題場面で、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。 主 加法の問題場面で□を用いて立式したことや図を用いたことを振り返り、減法でもそれらを生かそうとしている。	
2 かけ算とわり算 (教p.209~211)	3	◎具体的な場面について、乗法になる関係を□を用いた式に表し、図を用いて□に当てはまる数を求める。	知 乗法の問題場面で、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。 考 乗法の問題場面で、□に当てはまる数の求め方を図をもとに考え、説明している。	
* わり算の場面を式に表そう (教p.211)	4	◎具体的な場面について、除法になる関係を□を用いた式に表し、図を用いて□に当てはまる数を求める。 * 除法の場面で、除数が□になる場合について、□に当てはまる数の求め方を考える。	知 除法の問題場面で、□を用いて式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。 主 乗法の問題場面で□を用いて立式したことや図を用いたことを振り返り、除法でもそれらを生かそうとしている。	
たしかめ問題 (教p.212~213)	5 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知 具体的な場面について、未知の数量を□として数量関係を式に表したり、□に当てはまる数を求めたりすることができる。 考 図や式の表す意味を読み取り、式と図を結び付けることができる。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。
暗算 (教p.213)	1	◎2位数×1位数の乗法を暗算で計算する。	知 2位数×1位数、何百何十×1位数の計算が暗算でできる。 考 数の構成に着目して、2位数×1位数、何百何十×1位数の暗算の仕方を考え、説明している。	

* 算数たまたばこ

17 2けたの数をかける計算（指導時期 2月・9時間） → 授業内8時間 + 授業以外1時間

単元目標

- 2,3位数に2位数をかける乗法について、既習の乗法をもとに計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。
 知 2,3位数×2位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算することができる。また、被乗数や乗数が10倍になると積も10倍になることを理解するとともに、乗法の結合法則や交換法則を活用して、計算を工夫することができる。
 考 2,3位数×2位数の計算の仕方や筆算の仕方を、数の構成や既習の乗法に関して成り立つ性質をもとに考え、説明することができる。
 主 乗法の計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとしたり、発展的に桁数の多い計算を考えようとしたりする。

小単元名	時	学習内容	主な評価基準例	学校の授業以外の場で扱う場合の留意点
1 何十をかける計算 (教p.214～216)	1	[アプローチ] ◎教p.214の場面をもとに、何十をかける計算に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。 ◎何十をかける乗法の計算原理や方法を理解し、計算する。	知 何十をかける乗法の計算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の構成に着目し、何十をかける計算の仕方を、既習の計算をもとに考え、説明している。	
2 2けたの数をかける計算 (教p.217～220)	2 3	◎2位数×2位数で、部分積が2位数になる乗法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 2位数×2位数の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の構成に着目し、2位数×2位数の計算の仕方を、既習の計算をもとに考え、説明している。 主 2位数×2位数の計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとしている。	
	4	◎2位数×2位数で、部分積が3位数になる乗法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 部分積が3位数になる2位数×2位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 主 2位数×2位数の乗法の学習をもとに、3位数の乗法もできるのかと発展的に新しい問題を見出している。	
	5	◎3位数×2位数の乗法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知 3位数×2位数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 3位数×2位数の計算の仕方を、既習の乗法の計算をもとに考え、説明している。	
3 計算のきまり (教p.221)	6	◎乗数や被乗数、積の数量の関係に着目し、乗法のきまりを見つける。	知 被乗数や乗数が10倍になると積も10倍になることを理解し、工夫して計算することができる。 考 被乗数や乗数と積の関係から、乗法において成り立つきまりを見出し、説明している。	
4 計算のくふう (教p.222～223)	7	◎2位数×何十や1位数×2位数、何十×2位数の簡便な筆算の仕方を理解し、計算する。	知 乗法の手際の良い筆算の仕方を理解し、計算できる。 考 数の構成に着目したり乗法の交換法則を活用したりして、手際の良い筆算の仕方を考え、説明している。	
	8	◎3口の数の乗法を、結合法則や交換法則を活用し、工夫して計算する。	知 3口の数の乗法の手際の良い方法を理解し、計算することができる。 考 乗法の結合法則や交換法則を活用して、3口の数の乗法を手際良く計算する方法を考えている。	
たしかめ問題 (教p.224～225) * □にあてはまる数字を見つけよう (教p.225)	9 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 * 筆算形式で表された2位数×2位数の虫食い算をすることにより、乗法の筆算の理解を深める。	知 2位数をかける計算ができ、それを用いて問題を解決することができる。 考 乗法の結合法則や交換法則を活用して、3口の数の乗法を手際良く計算する方法を考えている。	学校の授業以外の場で行うか、答え合わせのみ授業内で短時間で行う。つまずきが見られる場合は、個別に支援する。

* 算数たまたばこ

18 倍とかけ算、わり算（指導時期 2～3月・4時間） → 授業内3時間 + 授業以外1時間

単元目標

- 比較量が基準量の何倍かを求める場合や、基準量を求める場合に除法が用いられることを理解する。
 知 整数の乗法において、基準量、倍、比較量の関係を理解するとともに、何倍かを求めたり、基準量を求めたりするときに除法が用いられることを理解する。
 考 比較量を求めるときに乗法が用いられることや、何倍かを求めたり、基準量を求めたりするときに除法が用いられることを、図などを用いて考え、説明することができる。
 主 図や口を使った式を用いると数量の関係が捉えやすくなることに気づき、学習に生かそうとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	学校の授業以外の場合の留意点
1 倍とかけ算, わり算 (教p.226~228)	1	◎基準量を何倍かした大きさを求めるときは乗法が用いられることを理解を深める。	知 比較量を求めるときに乗法が用いられることを理解している。 考 比較量を求める計算の仕方を考え, 図や言葉で説明している。	
	2	◎比較量が基準量の何倍かを求めるときは除法が用いられることを理解する。	知 何倍かを求めるときに除法が用いられることを理解している。 考 何倍かを求めるときに除法が用いられることを, 図や□を使った式を用いて説明している。	
	3	◎基準量を求めるときは除法が用いられることを理解する。	知 基準量を求めるときに除法が用いられることを理解している。 主 何倍かを求めるときに, 図や□を使った式を用いたことを振り返り, 基準量を求めるときに生かそうとしている。	
たしかめ問題 (教p.229)	4 ↓ 配 当 無	◎基本的な学習内容を理解しているか確認し, それに習熟する。	知 比較量を求めるときには乗法, 倍や基準量を求めるときには除法が用いられることを理解している。	学校の授業以外の場合で行うか, 答え合わせのみ授業内で短時間でやる。つまづきが見られる場合は, 個別に支援する。

そろばん (指導時期 3月・3時間) → 授業内3時間

単元の目標

そろばんの仕組みを理解し, そろばんによって数を表したり, 簡単な加法及び減法の計算をしたりすることができる。
 知 そろばんの構造, 部分の名称, 数の表し方, 用語の意味などについて理解し, そろばんを用いて数を表したり, 簡単な加法及び減法の計算をしたりすることができる。
 考 そろばんの仕組みや十進位取り記数法の仕組みに着目し, 玉の動かし方を考えることができる。
 主 そろばんが十進位取り記数法の仕組みをもとに作られていることの良さに気づき, そろばんで数を表したり計算したりしようとする。

小単元名	時	学習内容	主な評価規準例	
そろばんのしくみ (教p.230) 数のおき方とはらい方 (教p.231)	1	◎そろばんの構造, 部分の名称, 数の読み方, 表し方, 用語の意味について理解する。	知 そろばんの構造, 各部の名称, 数の表し方, 用語の意味などを理解し, いろいろな数をそろばんに置いたり, 払ったりできる。 主 そろばんに進んで関わろうとしている。	
たし算とひき算 (教p.231~232)	2	◎繰り上がりのない加法と繰り下がりのない減法の運珠法を理解し, 計算する。 ◎5の合成, 分解を伴う加法と減法の運珠法を理解し, 計算する。	知 繰り上がりのない加法と繰り下がりのない減法の運珠法を理解している。また, 5の合成, 分解をともなう加法及び減法の運珠法を理解している。 考 そろばんを用いた加法及び減法の計算の仕方を筋道立てて説明している。	
	3	◎10の合成, 分解を伴う加法, 減法の運珠法を理解し, 計算する。 ◎万の単位を含む簡単な加法及び減法の運珠法や, 1/10の位までの小数の簡単な加法及び減法の運珠法を理解し, 計算する。	知 10の合成, 分解をともなう加減や, 大きな数, 小数の簡単な計算の運珠法を理解している。 考 そろばんと十進位取り記数法の仕組みを関連付けて考えている。	
3年のふくしゅう (教p.233~235)	1 ↓ 1 時間 扱い	◎3学年の復習問題に取り組み, 既習事項の理解を確実にする。		問題を解くのは, 授業以外の場合とする。答え合わせは授業以外で行うか, 授業内で1時間扱いで行う。つまづきが見られる場合は, 個別に支援する。
プログラミングに ちようせん! (教p.236)		◎数当てゲームで, 数を特定するための質問を考え, フローチャートにまとめる。	考 数を多面的にみて, 相手の考えた数を特定できるような質問を筋道立てて考えている。	